

令和3年度 倉吉北高等学校 学校自己評価表

学校運営方針

目指す生徒像

- ・いかなる困難に直面しても、強い信念を持って立ち向かう生徒
- ・将来の夢(キャリアプラン)を語る生徒
- ・故郷を愛し、故郷を大切にす生徒
- ・社会の多様な変化に柔軟に対応できる生徒

目指す学校像

- ・生徒が誇りに思う学校
- ・地域に信頼され、地域から愛される学校
- ・一人ひとりの生徒の進路実現に努める学校
- ・生徒、教職員が元氣な学校

今年度の重点目標

- ① 豊かな人間性の育成
- ② 「確かな学力」の育成
- ③ 進路指導の充実
- ④ 部活動等の充実
- ⑤ 社会貢献活動の推進

評価基準

- A:概ね達成(80%程度以上)
- B:変化の兆し(60%程度)
- C:まだ不十分(40%程度)
- D:方策の見直し(30%以下)

評価項目	当 初 計 画			評 価 結 果		
	目指す姿	現状	具体的方策	経過・達成状況	評価 改善方策	
① 豊かな人間性の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○学校生活全体を通じて、誰にも優しく、親切で、礼儀正しく思慮深い生徒 ○自他を大切にす生徒 ○差別やいじめのない学校 ○様々な事柄に興味、関心を持つ生徒 ○環境保全に努める生徒 	<ul style="list-style-type: none"> ○しっかりと挨拶が出来る生徒が多い。 ○生徒間の関係はおおむね良好だが、中には人間関係で悩む生徒もいる。 ○人権教育などを通して、差別やいじめのない学校作りを推進している。 ○SDGsへの取り組みが不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶運動を継続する。 ○いじめアンケート、Hyper-QU等を通して、生徒からのサインを見逃さず速やかな対応をする。 ○LHRや日常の教育活動を通して誹謗中傷やいじめがない学校を築いていくよう働きかける。 ○持続可能な開発目標の理解を図るために、生徒会を中心とした取り組みを強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動での指導の成果もあり、礼儀正しくさわやかにあいつづける生徒が多い。 ○Hyper-QUで、不満足群に属する生徒への対応が十分ではなかった。 ○支援が必要な生徒や不登校傾向生徒に一層の対応が必要。 ○コロナ禍で、外部講師から学ぶ機会や、地域で職業を体験する学習が実施できなかった。進路選択における課題の意識づけが不十分。 ○探究のテーマ設定によってはSDGsへの関心を高めることができたが、全体としての意識づけは不十分。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○校長訓話、教員からの指導を、人格形成、在り方生き方教育の観点で踏まえて充実させる。 ○修学支援会議を定例化する。 ○配慮が必要な生徒等に対して学年・教科担任団の連携を密にすると共に、ケーススタディを行うなど修学支援体制を整え、サポートする。 ○定期的な個人面接を充実させる。 ○生徒の良いところを積極的に褒めるよう心がけ、自己肯定感を高める。
② 「確かな学力」の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○授業改革により生徒の考える力を高め、進路実現に向けた確かな学力を養成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTを活用した授業への取り組みが不十分である。 ○少人数授業や対話的な授業により、主体的に学びに取り組んでいる生徒もいる。 ○基礎学力の定着が不十分な生徒が20%前後いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT研修の定期的な実施と各教科によるICTを活用した授業研究を実施する。 ○マナトレ(進研)による基礎学力の定着を図る。 ○先進校視察や教員研修で、各教員の授業力向上を図る。 ○模試等の結果分析を全教員が共有し、改善策を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生は1人1台のiPadを購入し、調べ学習等で有効に活用できたが、教科学習での利用の工夫が不十分。また、教師指導と生徒の利用法が適切になされるよう、利用規約の協議確認が必要。 ○基礎学力育成の小テスト「マナトレ」を総合コース・調理科で実施。成績下位者(Dランク)の生徒数が減っている。 ○iPadを利用した研究授業ができなかった。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○研修を実施し、iPadを利用した研究授業を実施する。 ○教科指導の方法を改善する。 特に「主体的、対話的で深い学び」の推進。 ○入試作問をとおして中学校教育との接続を研究する。 ○教科研究会の中で新課程の指導内容、評価の仕方等について研究を深める。
③ 進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人一人の能力・適性などに配慮した個別指導を徹底し、進路希望を実現させる。 ・面談指導の充実 ・国公立大学10名以上合格 ・就職率100% 	<ul style="list-style-type: none"> ○特別進学コースでは、放課後補習や土曜補習を実施するなどして、生徒一人ひとりの学力向上に努めている。 ○1年次から実施しているキャリア教育が3年間を通した取り組みとして定着していない。 ○3年団での個人指導は熱心にされている。 ○全国模試でSS50以上の生徒が少ない。 ○就職率は100%であるが、一層の職業観・勤労観を養うことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学びの定着度を確認するための小テストをこまめに行う。 ○3年間を見据えたキャリアプランを作成し、各生徒の意識付けに努める。 ○担任団による面談を定期的に行い、生徒の心情理解に努めるとともに学習意欲の向上に努める。 ○Classi学習動画などを利用し、家庭学習の充実を図る。 ○ガイダンスや講演会を計画的に実施し、進路意識を高めるとともにキャリア教育の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○3年間をとおして系統立てたキャリア指導を実施、個人面談、適性検査などを活用し、早期の進路決定に向けた指導を実施した。 ○今年度は2年次からガイダンス・自己表現講座など早めの取り組みを始めた。2年全員参加のインターンシップを予定。 ○職業別・進路別ガイダンスや講演会など実施できず、低学年生徒の進路意識の向上と個々の意識差が課題。 ○国公立大学の一般選抜に向かう生徒増と得点力について課題。共通テスト利用推薦での合格生徒は共通テストで500点近辺を取れているが、全体としてのさらなる得点の積み上げが必要である。 ○総合型選抜・学校推薦型選抜に向かう生徒との面談や受験計画が一定程度うまくいき、国公立大学・難関私立大学の合格増につながった。 ○進学・就職とも3段階面接を行い、成果を上げた。 ○大学28名、短大7名、海外1名、専門等20名、就職26名、進学浪人1名 計83名(3/14現在) ○国公立大学合格 鳥取大、岡山大(2名)、公立鳥取環境大(2名)、市立山口東京理科大、防衛大、鳥根県立大短大部 ○就職(内定率100%) 県内65%・県外35% 日本郵便(4名)、西田製作所、どうそう企画(2名)、三朝館、ラッコホテル、チコ&田園、ホテルモナーク、みのり福祉会 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○国公立大学の一般選抜で合格する得点力をつける。一般入試で、共通テスト500点近辺から、もうひと壁越えるための、演習方法などの改善を図る。 ○入学選抜方式ごとの対応を確実に行う。1・2年次からの早めの取り組みをいっそう進める。 ○オンラインを活用したイベント・見学会への参加を推進する。 ○「総合的な探究の時間」における「課題研究」を充実させ、キャリア形成意識を高め、進路実現につなげる。 ○キャリアパスポートの活用を推進し、総合型・学校推薦型選抜への対応を高めるなど、入試出願に備える。 ○大学・専門学校の出前講義を積極的に取り入れ、進路意識の向上を図る。コースごとの取り組みも模索する。
④ 部活動等の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動等を通して、自主性や向上心、忍耐力、協調性、責任感、連帯感などを育成する。 ○全国大会で活躍する生徒を育成する。 ○県大会優勝 チーム・個人 昨年度以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○礼儀正しい生徒が多く、生徒会活動でも部活動を頑張っている生徒が執行部を運営している。 ○各運動部が中国大会、全国大会を目標にして活動している。 ○目的を持って活動している生徒がいる反面、部活動に加入していない生徒も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各部活動において、競技力の向上だけでなく人間力の向上を目指した活動を推進する。 ○外部指導者も活用し、選手の強化を図る。 ○部活動への勧誘を奨励し、活発な活動を展開する。 ○県内外の優秀な中学生への勧誘を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動部・文化部とも熱心に活動している。 ○気軽に参加できる部が少ないので、なるべく多くの生徒が参加できるように工夫が必要である。 ○コロナ禍の中、感染症予防ガイドラインに沿った活動ができていた。 ○部活動、生徒会活動、委員会活動、週番活動について、従来どおりの活動となっているが、生徒の主体性を高める必要がある。 ○全国大会入賞者数 R3…3チーム・22名 陸上競技部 柔道男女、卓球女子 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動へ加入を奨励し、活発な活動を展開する。 ○部員の勧誘を充実させ、運動部では競技力の向上を目指す。吹奏楽部ではより音楽性の高い演奏ができるよう活動を充実させる。 ○全国大会で活躍する生徒、県大会優勝チーム・個人が昨年度以上であった。継続して競技力を向上していく。 ○生徒が自ら考え行動できるように導く。
⑤ 社会貢献活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○社会貢献の意義を学び、主体的に行動できるよう、ボランティア活動等に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域や施設でのボランティア活動への参加を積極的に呼びかけている。 ○生徒会、部活動、福祉類型選択者などが活動を行っている。 ○探究活動を通して、地域貢献に関わろうとする生徒も出てきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○クラスや部活動を通してボランティア参加を呼びかける。 ○ボランティア掲示板等を使い、活動を広く生徒に周知し、参加者増に努める。 ○生徒全員が年に1回はボランティア活動を行うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア募集を各クラスに掲示し、積極的にボランティア活動に参加するよう呼びかけを行った。ルーム長が各クラスに働きかけた。 ○ボランティアに参加している生徒が減少している。(今年度は、コロナウイルス感染症の影響により募集が少なかった。) 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア募集をクラスに掲示し、積極的にボランティア活動に参加するように生徒から呼びかけを行う。 ○ボランティア活動等を通して、社会と交流し自己の在り方生き方を考えさせる、発表の場を設ける等の工夫が必要。 ○ボランティア活動をとおして奉仕の心を養う。 ○外部が募集しているボランティアのみならず、通学路清掃・地域のゴミ拾い等の地域に密着したボランティアも考えさせていく。
⑥ 安心安全な学校生活の確保	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症への感染防止対応が十分に出来ている学校集団 	<ul style="list-style-type: none"> ○マスクの着用や手洗いは徹底されてきた。 ○教室内の換気も毎時間行っている。 ○友人同士の会話で大きな声を出している生徒がいる。 ○教室、部室等の消毒が十分とは言えない。 ○全体的に生徒同士の距離感がまだ近い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝の検温等、体調チェックを徹底する。 ○マスク、手洗い、換気を徹底する。 ○部活動におけるガイドラインを守り、チェックシートで確認する。 ○寮におけるガイドラインを守り、規則正しい生活をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝、家で体温測ってきてない生徒が多数いた。 ○マスク着用、手洗い、換気が徹底できていない状況があったが、生徒会等の呼びかけ、掲示物掲示により、改善傾向にある。 ○寮内では概ねガイドラインに沿った生活ができていた。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○各クラス担任、副担任で朝の健康チェックを徹底し、習慣化を図る。 ○引き続きマスクの着用、手洗い、換気を呼びかけていく。 ○ガイドラインをよく理解させ、自覚ある行動を呼びかけていく。